

【巻頭言】

被服衛生学部会の役割

～ 新しい時代の始まりとともに～

平林由果

金城学院大学生生活環境学部

2019年5月、元号が平成から令和へと変わり、新しい時代が始まりました。10月22日には、天皇陛下の御即位を広く披露するための「即位の礼」が行われました。皇居・宮殿で行われた「即位礼正殿の儀」では、侍従と女官によって、「高御座」と「御帳台」のとばりが開けられると両陛下が姿を見せられました。天皇陛下は平安時代から儀式での天皇の装束とされる「黄櫨染御袍」、皇后さまは「十二単」に身を包まれていました。皇室行事により伝統の織物や染色などの技術が継承されていることは、大変喜ばしいことであると感じました。まるで平安絵巻を見ているようで、歴史の一場面に遭遇できたことを有難く感じました。

平成の時代は、地震、火山活動、台風など多くの自然災害が発生し、それにより多くの方が被災され、今も復興に向けての取り組みが継続されています。令和元年もスーパー台風の度々の到来により、想定できないほどの風害、大雨による洪水、水害により、甚大な被害が発生しています。

本部会では、2011年の第30回被服衛生学セミナー（小柴朋子実行委員長）において、3月に発生した東北大震災を受けて「災害と被服衛生学」をテーマとして、地震・津波・原発事故に関連して放射線の人体への影響や災害現場で使用される防塵服、防護服について特別講演が行われました。2013年の平成24年度科研費公開促進費による公開講座（潮田ひとみ実行委員長）では、「衣服と健康の科学、最前線ーここまでできる、衣服の力を考えるー」が開催されました。1995年の阪神淡路大震災と2011年の東北大震災の避難生活における衣生活、備蓄品の問題点などについて講演が行われ、災害から身を守るための衣服に関するワークショップが実施されました。そして、本年度に開催された第38回被服衛生学セミナー（久慈るみ子実行委員長）において、再び「災害と被服衛生学」をテーマとして、避難所での災害関連死

を防ぐ取り組み、避難所での子どもの睡眠や災害ストレスと発育など様々な角度から災害について学ぶことができました。

このように本部会では、災害に関連する講演会を継続的に開催し、災害から身を守るための衣生活や震災発生後の避難者の衣生活、備蓄の問題を考える機会を度々設けてきました。災害時に部会として何をすべきか、被災地支援、衣生活支援として何ができるのかなど、今後も継続的に災害時の部会の役割について考え、部会のできる支援を検討していく必要があると思います。本部会の目的は、「被服衛生学領域の研究・教育を推進し、併せて家政学の発展に寄与すること」です。部会員が平成の震災から学び、令和時代に引き継がれる復興への支援に携わりつつ研鑽を積むことで、被服と健康の科学の発展に寄与し、その研究成果を人々の健康な生活に還元できるような部会となることを願っております。

2019年度から2年間、部会長をお引き受けすることとなりましたが、私が初めて部会に参加したのは、富士教育研究所で開催された第1回被服衛生学セミナーでした。38年の歳月が流れ、当時の先生方はすでに退職されており、お目に掛かる機会もほとんどなくなってしまいましたことは、とても寂しいことです。先人の先生方が築き上げられた部会を維持、発展させていけるよう、微力ながら尽力する所存でございます。部会の皆様には、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

<連絡先>

〒463-8521

名古屋市守山区大森 2-1723

金城学院大学生生活環境学部 平林 由果

電話：052-798-0180・FAX：052-798-0370

eメール：hirabaya@kinjo-u.ac.jp